

目次

センター活動報告	2
会員による会員の招待(MIMe)を開催	2
14th EAJS Workshop for Doctoral Students に 参加	2
第 6 回 Junior Forum を開催	3
9th Brussels European Centre Symposium に 参加	3
JANET FORUM 2018 を開催	4
AvH Network Meeting に参加	4
Kyushu-Mainz International Chemistry Symposium に参加	5
RWTH Aachen final symposium IRTG Aachen- Osaka に参加	6
今後のイベント	6
センター長コラム	7
ドイツ学術ニュース	8



【表紙写真:ケルンのクリスマスマーケット】世界遺産として有名なケルン大聖堂の前では、11 月下旬からクリスマス前にかけて、約 150 店舗が立ち並ぶクリスマスマーケットが開催され、毎年多くの観光客で賑わいます。

センター活動報告

会員による会員の招待(MIMe)を開催

日時：2018年10月5日（金）～6日（土）

場所：ボン大学（Universität Bonn）

JSPS ボン研究連絡センターは、毎年、ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会（JSPS Club）主催イベント「会員による会員の招待」（MIMe: Mitglieder laden Mitglieder ein）の開催を支援しています。本イベントは、JSPS Club 会員が他の会員を招待し、ネットワーク形成を促進することを目的に開催されているものです。第13回目となる本年は、創立200周年を迎えたボン大学を舞台に、「ボンにおける日本のあしあと」と題して、学術講演等が行われました。

1日目は、ボン大学の Michael Hoch 学長、JSPS Club の Heinrich Menkhaus 会長、在デュッセルドルフ日本国総領事館の磯総領事の挨拶により始まりました。その後、ボン大学から日独交流史・現状のプロジェクトに関する講演、ベートーヴェン・ハウス・ボンから「第九」日本初演100周年に関する講演が行われました。続いて、ボンに拠点を持ち JSPS Club 法人会員でもある筑波大学、自然科学研究機構による講演が行われました。またプログラムの最後には、活動写真弁士の片岡一郎氏による無声映画の活弁が行われ、参加者は熱心に聞き入っていました。

2日目はボン大学付属植物園（Botanischen Gärten der Universität Bonn）を訪れ、園内の日本に関連する樹木に関するガイドツアーにより、参加者は植物研究、園芸における日独の交流について理解を深めることができました。昼食会は歴史ある旧市庁舎で開催され、会員同士による活発な交流がさらに進みました。



Hoch 学長



磯総領事



講演の様子



（上）
植物園ガイド
ツアー
（左）
旧市庁舎での
昼食会

14th EAJS Workshop for Doctoral Students に参加

日時：2018年10月9日（火）～10日（水）

場所：ベオグラード大学（University of Belgrade）

出張者：出口副センター長

14th EAJS Workshop for Doctoral Students が10月8日から11日にかけてセルビア・ベオグラードで開催され、9日のセッションで出口副センター長が JSPS の国際交流事業、特に外国人特別研究員等の招へい事業についてのプレゼンテーションを行いました。本ワークショップは、人文学や社会科学の分野で日本研究を行う大学院生からシニア研究者まで、分野横断的なネットワークを作ることを目的とするもので、毎年ヨーロッパ各地で

開催されています。今回は、ドイツ・フランス・イタリア等ヨーロッパ各地の大学に所属する大学院生や、あるいは現在日本の大学に留学中の大学院生など20名と、アドバイザーの教員等合計約30名が参加しました。プレゼンテーション後のコーヒーブレイクでは、プログラムに興味を持った参加者から多くの質問がされました。この日はワークショップに先立ってベオグラード大学の International Relations Office を訪問し、懇談を行いました。10日には、ベオグラード大学の機械工学部を訪問し、懇談を行ったほか、大学院生や研究者を対象にした事業紹介のプレゼンテーションを行いました。

セルビアから外国人研究者招へい事業で日本に研究滞在する研究者の数は、現在のところ多くはありませんが、これをきっかけに申請の増加が期待されます。

第 6 回 Junior Forum を開催

日時：2018 年 10 月 6 日（土）

場所：Gustav-Stresemann-Institut (GSI)（ボン）

JSPS ボン研究連絡センターは、2018 年 10 月 6 日（土）、ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会（JSPS Club）との共催で、今回で第 6 回目となる Junior Forum をボンで開催しました。本イベントでは、外国人研究者招へい事業（外国人特別研究員）により日本に研究滞在後、今年度中にドイツへ帰国した研究者を招待しており、今回は 9 名の若手研究者が参加しました。帰国直後の若手研究者が日本での研究滞在経験を発表するとともに、JSPS Club 会員であるシニア研究者がキャリア形成について体験談を紹介することで、研究者同士の意見交換の機会を提供すること、また若手研究者の同窓会加入を促進することを目的としています。

始めに、林センター長、JSPS Club の Menkhaus 会長からの挨拶がありました。続いて、今年度のサマー・プログラム、外国人特別研究員（欧米短期）、あるいは外国人特別研究員（一般）に参加した若手研究者から、日本での研究滞在についてそれぞれ報告がありました。次に、JSPS Club 会員のシニア研究者（Matthias Hofmann 氏、Chantal Weber 氏の 2 名）から、それぞれ自身のキャリア形成についての体験談が紹介されました。その後、コーヒープレイクを挟み、若手研究者による発表が引き続き行われました。続いて、JSPS Club の Ganter-Richter 氏による活動紹介、出口副センター長による JSPS の外国人研究者招へい事業の紹介があり、全体の発表について質疑応答が行われました。最後に、林センター長の挨拶により、閉会しました。

本イベントでは、5 月開催のサマー・プログラムオリエンテーション 2018 で既に顔を合わせていた若手研究者もあり、日本での経験談に話が弾んでいた様子でした。コーヒープレイクや夕食会の際にも、若手研究者とシニア研究者が混ざって熱心に交流が行われていました。日本での研究滞在という共通の経験を持った研究者同士が知り合い、研究活動や今後のキャリア形成について意見交換する良い機会となりました。



Menkhaus 会長



Hofmann 氏



Weber 氏



Ganter-Richter 氏



（上、左）
会場の様子

9th Brussels European Centre Symposium に参加

日時：2018 年 10 月 23 日（火）～24 日（水）

場所：ブリュッセル自由大学（Vrije Universiteit Brussel）

参加者：林センター長

9th Brussels European Centre Symposium がブリュッセル自由大学で開催され、ボン研究連絡センターから林センター長が出席しました。

本シンポジウムは、神戸大学ブリュッセルオフィスとブリュッセル自由大学の協力の下、" Smart Cities, Secure Societies: Breakthroughs in EU and Japan Research Cooperation"のテーマで開催され、当日は政府関係者、研究者、学生など 120 名を超える参加がありました。開会にあたり、武田 神戸大学長、Meeusen ブリュッセル自由大学国際担当理事、兒玉 欧州連合日本政府特命全権大使、Child 欧州委員会研究イノベーション総局副局長が挨拶し、日欧の一層の研究協力に対する期待が述べられました。

JANET FORUM 2018 を開催

日時：2018 年 11 月 22 日（木）～11 月 23 日（金）

場所：国立応用科学院リヨン校（INSA Lyon）

参加者：林センター長、出口副センター長、
田畑国際協力員、菊池国際協力員

JANET フォーラム 2018 が、11 月 22 日（木）、東北大学と国立応用科学院リヨン校共催、JSPS 在欧 4 研究連絡センターの協力により、フランス・リヨンにて開催されました。

JANET（Japan Academic Network in Europe）は、主に欧州に拠点を持つ日本の大学・学術機関による日欧の学術情報交換を目的とした組織です。第 3 回目となる本フォーラムには、日欧の関係者約 100 名が参加しました。

シンポジウム冒頭では、Dr. Eric Maurincomme INSA Lyon 学長、大野英男 東北大学学長の挨拶に続いて、日本の 4 大学とフランスの 2 大学から高等教育における日仏連携、またフランス国立科学研究センター（CNRS）、欧州委員会、JSPS から日仏の国際交流事業について紹介がありました。

フォーラムに先立って開催されたインフォメーション・セッションでは 10 の大学・学術機関により、日本への留学や研究滞在、国際交流事業に関するプレゼンが行われました。会場では立ち見が出るなど、フランスにおける日本への関心の高さが伺えました。

また翌 11 月 23 日（金）には、JANET フォーラム 2018 ワークショップが開催されました。独立行政法人日本貿易振興機構ブリュッセル事務所次長 前田篤穂氏を講師に迎え、EU 一般データ保護規則に関する講演が行われ、参加者からは質問が相次いでいました。続くグループディスカッションでは、3 つのグループに分かれ、海外オフィスの共同利用・共同設置や、機関を超えた拠点間の連携について、活発な意見交換が行われました。

2019 年の JANET フォーラムは 11 月にイギリス・ロンドンにおいて、大阪大学とユニバーシティ・カレッジ・ロンドンの共催により開催される予定です。

参考：JANET ウェブサイト <https://www.janet-info.jp/>

（右）Maurincomme 学長
（下）インフォメーション・セッションの様子



AvH Network Meeting に参加

日時：2018 年 11 月 14 日（水）～16 日（金）

場所：ボン大学（Universität Bonn）

参加者：林センター長、Schulze 現地職員、菊池国際協力員
11 月 14 日（水）～16 日（金）、フンボルト財団（AvH）によるネットワークミーティングがボン大学で開催されました。当日は、約 180 名の奨学生（フンボルトフェロー）が参加しました。フンボルト財団は、日本学術振興会のドイツにおける対応機関の 1 つであり、ドイツ国内外の研究者に対する助成を行っています。本イベントは、現在ドイツに在住しているフンボルトフェローの研究者を招待し、フェロー同士の交流や、AvH 側からドイツでの研究滞在に関するアドバイスを提供する機会として、毎年開催されています。

1 日目は午後 3 時に開始され、ボン大学の Hoch 学長、AvH の Hesse 副事務総長が歓迎の挨拶を述べました。その後、ボン大学の物理学者である Michael Köhl 教授の基調講演「量子科学と量子力学 - 基礎物理から応用まで」が行われました。講演後は、コーヒブレイクを挟み、フェローの出身地域により

各部屋に分かれてグループごとのディスカッションが行われました。Schulze 現地職員はドイツ人研究者のグループ、林センター長、菊池国際協力員はアジアからの研究者のグループに参加しました。アジアのグループにおけるディスカッションでは、フェロー全員の自己紹介、AvH のプログラムやドイツでの生活についての質疑応答、AvH 担当者からの同窓会活動についての説明が行われました。ドイツでの生活の細かいことについて、フェローが AvH 担当者に直接相談する機会となっていました。終了後は、別会場までバスで移動したのち、合同夕食会が開催されました。夕食会は終始にぎやかな雰囲気、参加者は自由に席に座り、フェロー同士の交流が活発に行われていました。



（上）AvH の Hesse 副事務総長
（右）会場の様子



Kyushu-Mainz International Chemistry

Symposium に参加

日時：2018 年 11 月 5 日（月）

場所：ヨハネス・グーテンベルク大学マインツ

（Johannes Gutenberg-Universität Mainz）

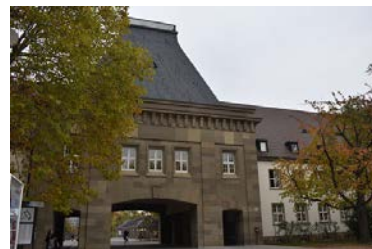
参加者：林センター長、田畑国際協力員

Kyushu-Mainz International Chemistry Symposium がヨハネス・グーテンベルク大学マインツ（マインツ大学）で開催され、ボン研究連絡センターから林センター長、田畑国際協力員が出席しました。

シンポジウム冒頭では、若山正人 九州大学理事・副学長、Dr. Stefan Müller-Stach マインツ大学研究・Early Career Academics 担当副学長、林センター長の挨拶に続いて、九州大学・マインツ大学の大学間学術協定が締結されました。その後の 12 の研究発表では、いずれにおいても活発な意見交換、質疑応答が行われました。また全体を通じ、長年の九州大学

とマインツ大学間における化学分野での研究交流が、全校レベルに発展したことを歓迎し、さらに交流が深まることを期待する声が多く聞かれました。

また同日、田畑国際協力員はマインツ大学国際部を訪問し、外国人特別研究員事業をはじめとする国際交流事業の説明を行いました。



（右）マインツ大学
（下）林センター長



マインツ大学の紹介

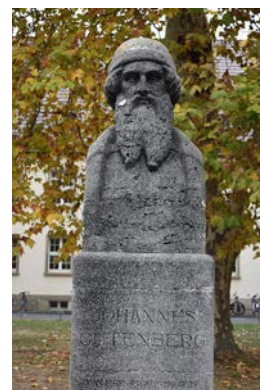
ヨハネス・グーテンベルク大学マインツ（Johannes Gutenberg-Universität Mainz）は、ラインラント・プファルツ州の州都マインツにある州立大学です。1477 年、マインツ大司教の威光により設立されました。戦争等による 150 年に及ぶ閉鎖ののち、1946 年に再開され、現在では学生数 3 万人以上を擁するドイツ有数の総合大学です。

活版印刷を発明したとされるグーテンベルク（マインツ出身）の名を冠する同大学は、「The Gutenberg Spirit: Moving Minds – Crossing Boundaries」をモットーとして掲げ、革新的な精神を見習おうと努めています。

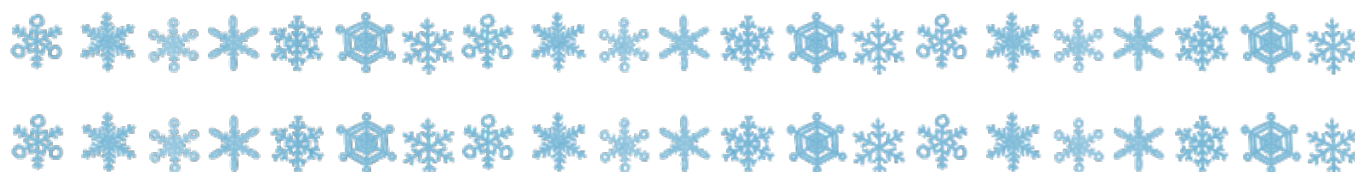
11 月 12 日閲覧

http://www.uni-mainz.de/universitaet/index_ENG.php

http://wiwi.uni-mainz.de/636_ENG_HTML.php



マインツ大学構内の
グーテンベルク胸像



RWTH Aachen final symposium IRTG Aachen-Osaka に参加

日時：2018 年 11 月 26 日（月）

場所：アーヘン工科大学（RWTH Aachen University）

参加者：林センター長、菊池国際協力員

11月26日（月）～27日（火）、大阪大学とアーヘン工科大学による日独共同大学院プログラムの最終シンポジウムがアーヘン工科大学で開催され、ボンセンターから26日（月）のプログラムに参加しました。

アーヘン工科大学と大阪大学は、日本学術振興会がドイツ研究振興協会（DFG）と協力して実施している日独共同大学院プログラムに採択されています。「環境調和を指向した生物および化学プロセスに関する共同大学院教育プログラム」をテーマとして、共同研究の実施、セミナーやワークショップの開催、大学院生の派遣等を通じて、若手研究者を養成するための教育研究体制を構築してきました。本シンポジウムは、9年間にわたる活動の締め括りとして開催されました。

当日は、両大学からの教員・大学院生を含む、多数の参加者が集まりました。アーヘン工科大学の Rüdiger 学長、大阪大学の近藤副理事、在デュッセルドルフ日本国総領事館の磯総領事、林センター長等を含む7名から挨拶が述べられました。それぞれの立場から、共同プログラムの成果を祝福するとともに、長

年にわたる協力に対する感謝と今後のへの期待が述べられました。その後、両大学の研究者から合同で、研究交流の成果について発表がありました。日本およびドイツでの研究滞在の体験を交えた報告は、参加者を和ませていました。

講演会場に隣接するスペースで立食形式の昼食会を挟んだ後、午後のセッションでは、最先端の研究成果に関する3つの講演が行われました。続いて、博士学生やポスドク学生によるポスターセッションが行われました。

講演会場の隣接スペースには JSPS のデスクが設けられ、コーヒープレイクの時間に立ち寄った学生や教職員へ資料を提供するとともに事業の紹介を行いました。

（右から時計回りに）

Rüdiger 学長、JSPS のデスク、講演会場の様子



今後のイベント

2月7日（木）～8日（金） 第15回日独学術コロキウム（ベルリン）



ボン中心部・ベートーヴェン像とクリスマスマーケット

夏の終わりとともに、店頭にクリスマス関連商品が並び始め、10月、11月と加速度的に熱を帯びていき、そして迎えた12月。街は見たこともない熱気に包まれました。華やかなクリスマスマーケット（Weihnachtsmarkt）はボン中心部のみならず、ボンセンター最寄りのバードゴースベルクにも出現。ボン近郊、ジークブルクの中世風マーケットも細部まで見応えがありました。第一アドベントから第四アドベントまで、日曜日ごとに1本ずつロウソクに火を灯すこと。聖ニコラウスの日（12月6日）にプレゼントをもらうこと。クリスマスにも地域性があります。まだまだ世界は知らないことだらけです。

田畑国際協力員

センター長コラム

着任して半月ほど経過した 10 月 18 日、ボン大学の創立 200 年を祝う式典が開催された。式典にはシュタインマイヤー連邦大統領が出席され、かなり長い式辞を述べられた。

大統領は、ボン大学の創立から 200 年にわたるドイツの現代史をたどりつつ、ボン大学の果たした役割の重要性を述べた。一方で、全体主義を避けることができなかったドイツの歴史に関して、「大学」はその重要な役割を果たせなかったという反省も含まれていた。



式辞を述べるシュタインマイヤー連邦大統領

では大統領が「大学」に求める重要な役割とは何だろうか。それは民主主義と自由の場であれということだった。人々に精神の自由があるときのみ民主主義は機能する。しかし人権が守られて初めて民主主義は実現するのであり、多数を得れば何をしても許されるというわけではない。現実では民主主義の何たるかは常に議論のあるところである。たとえば言論の自由に関して言えば、（ポリティカル・コレクトネスに言及して）何を言うことが許され、何を言うことが許されないかは、常に議論がある。民主主義の何たるかを探求するのは大学の役割だ。そこには学問の自由が必要である。学問の自由があるからこそ、真理の探究を通して民主主義が何であるかを学ぶことができる。学問の自由は学問自身を守るしかない。それは大学人の責務である。学問の自由を通して、大学は民主主義と自由を守る責務を負っている。そのために、大学人は自分の専門分野に閉じこもらず、広く社会に出て意見を戦わせることを恐れてはならない。大統領の演説の趣旨は、このような内容だったと思う。

それにしても「大学の役割とは何か？」と問われて、ここまで根源的なレベルにまで掘り下げて話せる人はどのくらいいるのだろうか。大学はイノベーションの創出に貢献すべきだとか、大学は地域のために貢献すべきだとかいう話は、昨今頻繁に耳にする。そんななかで、シュタインマイヤー大統領は、大学はその本来の最も重要な役割を忘れてはならない、と言っているように聞こえる。そんなことを考えながら、大統領の演説の言葉（同時通訳）にいちいち頷いていた。思えば政治家の演説にこれほど感激したのは、2008 年 11 月にバラク・オバマ氏が大統領選に勝利したおり、シカゴで行なった演説以来である。

林 正彦

ドイツ学術ニュース

ドイツのエクセレンス戦略、最終決定

ドイツ研究振興協会（DFG: Deutsche Forschungsgemeinschaft）とドイツ学術審議会（WR: Wissenschaftsrat）による共同プレスリリース

助成期間は 2019 年 1 月から 7 年間／年間 3 億 8,500 万ユーロを助成／19 大学がエリート大学への申請可能に／ボンでの結果発表

ドイツの大学におけるトップレベルの研究を強化するためのプログラムである、エクセレンス戦略において、最終決定がなされた。

2018 年 9 月 27 日、国際的な専門委員と連邦政府及び州政府の研究担当大臣により構成されるエクセレンス委員会は、提出のあった 88 件のプロジェクトの中から 57 件のエクセレンス・クラスターへの助成を決定した。

この最終決定は、ボンで開催されたエクセレンス委員会の会合後に行われたライブストリーミングによる記者会見で、共同学術会議の議長を務めるドイツ連邦教育研究省（BMBF:

Bundesministeriums für Bildung und Forschung）の Karliczek 大臣と、共同学術会議の副議長を務めるブレーメン州の Quante-Brandt 科学上院議員により発表された。DFG の Strohschneider 理事長と WR の Brockmeier 議長は、最終決定がなされるまでの選考プロセス及び選考方法について説明した。

2016 年 9 月、連邦政府と州政府間での合意に沿って、エクセレンス・クラスターを実施する責任を持つ DFG は公募を開始した。2017 年 4 月には、63 の大学から DFG へ合計 195 件のプロジェクトの申請があった。その後、これらの申請は国際的な 21 の専門パネルにより、学術的な質的評価基準に基づいて審査された。

この審査結果を受けて、2017 年 9 月 29 日、共同学術会議により任命された 39 名の研究者により構成されている専門委員会は、88 のプロジェクトを最終選考の対象として選抜した。

2018 年 2 月に、88 件のプロジェクトの最終申請が 13 州 41 大

学から提出された。そのうち、62 件は 1 大学単独、23 件は 2 大学共同、3 件は 3 大学共同によるプロジェクトであった。

その後、88 件の最終申請は、2018 年の春から夏にかけて、約 400 名の研究者（うち 90%の研究者がドイツ国外に拠点を置く）からなる 32 のパネルにより審査された。これらの学術的な質的評価基準に基づいて、専門委員会は 9 月 25 日、26 日に比較評価を実施し、エクセレンス委員会によって最終決定が行われた。

今回採択された 57 のエクセレンス・クラスターは、34 の大学で実施される。40 件は 1 大学単独、14 件は 2 大学共同、3 件は 3 大学共同により実施予定である。これらのプロジェクトのうち約 49%は、2012 年に開始したエクセレンス・イニシアティブによる資金援助を受けている、エクセレンス・クラスターあるいは大学院コースを土台として構成されている。

採択されたクラスターには、大学外のパートナーが高いレベルで関与している、大部分のプロジェクトにおいて主要な学術分野をはるかに超えた学際的なものである、という特徴がある。

新たなエクセレンス・クラスターへの助成は 2019 年 1 月に開始される。助成期間は 7 年であるが、再申請が認められたクラスターについては助成期間がさらに 7 年間延長される。行政合意に従って、年間約 3 億 8,500 万ユーロの支援が予定されており、75%が連邦政府、25%が当該州政府により拠出される。

エクセレンス・クラスターの決定は、WR が実施するエクセレンス大学に申請するための条件にもなっている。今回の決定を受け、2 つ以上のエクセレンス・クラスターの拠点である 17 の大学と、3 つ以上のエクセレンス・クラスターの拠点である 2 つの大学コンソーシアムは、エクセレンス大学への申請が可能となる。申請締め切りは 2018 年 12 月 10 日で、その後審査が行われ、エクセレンス委員会により 2019 年 7 月 19 日に最終決定が行われる予定である。

DFG:

http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2018/press_release_no_43/index.html

(2018 年 9 月 27 日)

DFG の新たな検索ポータルサイト「GERiT」：2 万 5 千を超えるドイツの大学や研究機関に関する情報を掲載

「Research Explorer」から「GERiT – German Research Institutions」へ

ドイツ研究振興協会（DFG）によるポータルサイト「GERiT – German Research Institutions」は、2 万 5 千を超えるドイツの大学や研究機関に関する情報を、ドイツ語および英語で掲載している。同ポータルサイトは、世界中のユーザーに対して、ドイツの研究環境を探るための効率的で柔軟な方法を提供する。GERiT は、旧ポータルサイト「Research Explorer」の後継となる。

GERiT の新しい特徴は、個々の研究機関に関する統計データ（大学の場合は、学部、研究所、学生、教授の数など）を提供していることである。併せて、多くの大学のキャリアポータルサイトへのリンクも掲載している。ドイツの高等教育に関するポータルサイト「Higher Education Compass」を提供するドイツ大学長会議（HRK: Hochschulrektorenkonferenz）と連携することで、ユーザーはその学部博士課程があるかどうかを調べることができる。もしある場合は、Higher Education Compass へのリンクにより、博士学位取得に関するあらゆる情報にアクセスでき

る。また、DFG が公的資金の提供を受けた研究についての重要な統計データをまとめた「DFG Funding Atlas」へのリンクにより、各研究機関の主要研究分野の概要を知ることができる。検索結果はリスト、あるいはインタラクティブマップで表示され、さらに詳細条件で絞り込むこともできる。さらに、各研究機関の項目にはロケーションマップがあり、場所や行き方を確認することができる。

DFG は、GERiT 並びに前身の Research Explorer を通じ、研究活動における主要データセットをさらに体系化・標準化し、2016 年にドイツ学術審議会（WR: Wissenschaftsrat）が公表した勧告に則したものとなるよう役立てている。研究における主要データセットを整備する目的は、データに基づいた研究報告の基準を確立することである。

GERiT は、ドイツ学術交流会（DAAD: Deutsche Akademische Austauschdienst）が提供する「research-in-germany.org」へリンクすることで、国際的な研究の場としてのドイツを宣伝するとともに、関心のある学生や研究者へ最大限のアプローチを行っている。

DFG:

http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2018/press_release_no_49/index.html

（2018 年 10 月 29 日）

科学における情報セキュリティ：

HRK 勧告とガイダンス

ドイツ大学長会議（HRK）の Alt 会長は、11 月 7 日にベルリンで行われた記者会見で次のように述べた。

「大学は、多くの機密性の高いデータを扱っている。そのため、情報セキュリティは大学に深く関係するトピックである。企業との連携においてだけでなく、特に研究においてや、学生データの管理においては、機密性の高いデータが蓄積される。一方で、それらのデータは、自由な研究・教育や重要な学術交流が妨げられないような方法で、常に保護されなければならない。」

11 月 6 日にリユネブルクで開催された HRK 総会では、以上のような目的のために、中間管理職レベル向けのガイダンスに加えて、トップクラスの学生向けの推奨事項を含めた文書が採択された。この文書の準備に携わった、HRK の Gross デジタル・インフラ担当副会長は次のように述べた。「この文書の採択は、私たちがこのトピックに取り組むことの重要性を示している。大学は、国際的な協力関係を持つとともに、多数のプロジェクトを幅広く

実施し、またスタッフの入れ替わりも激しいため、とりわけ脆弱である。そのため、大学の経営管理者は、情報セキュリティを継続的な課題として考えなければならない。また、中間管理職レベルでは、個々のケースにおける適切な対応策を永久的に確立する必要がある。さらに、必要な資金は、国の資金の一部として、そしてプロジェクト資金を通じて提供されなければならない。」

HRK の採択文書は、情報セキュリティを IT セキュリティに縮小することはできないことを強調している。情報の保護目標とリスクアセスメントの定義は、法的に定められた枠組みの中における大学自身の責務であり、IT サービスのプロバイダーに任せることはできない。採択文書に含まれるガイドラインは、普遍的な有効モデルではなく、意識を高めるための措置や、データ分類、およびデータ管理計画の策定のための提案について記述されている。

HRK:

<https://www.hrk.de/presse/pressemitteilungen/pressemitteilung/meldung/informationssicherheit-in-der-wissenschaft-hrk-empfehlung-und-handreichung-4451/>（2018 年 11 月 7 日）



DFG の Dorothee Dzwonnek 事務総長退任

ドイツ研究振興協会（DFG）Strohschneider 理事長の発表は次の通り。

「DFG 協議会の要請により、Dzwonnek 教授は事務総長の職を辞することを公表し、秩序ある後継への道を開いた。

Dzwonnek 教授は、DFG 事務総長として 11 年以上にわたり、成功を収めた。DFG 協議会は、多くの功績と成果に感謝している。

Dzwonnek 教授は、DFG の機関本体や委員会と常に建設的に協力し、多くの重要なプロジェクトを成功裏に立ち上げ、実施してきた。在任中、オフィスの再編成や、人事とコンプライアンス管理のための専門的な新しい手続きと手段の全国的な導入が

行われた。特に、ドイツ学術機関連盟における学術自由法に関する交渉、研究活動における不正行為防止の順守、および学術システム全体における研究指向の平等基準の遂行には、特別にコミットメントした。

DFG は Dzwonnek 教授に心からの感謝の意を表する。

Dzwonnek 教授が、今後もドイツの学術システムにおいて重要な役割を果たし続けることができると、DFG は確信している。」

Dzwonnek 教授の事務総長退任は、11 月 12 日から有効となる。

DFG:

http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2018/pressemitteilung_nr_52/index.html (2018 年 11 月 12 日)

一般教育および職業教育のための外国滞在を促進 カリチェック大臣：「国際的な経験は生活や職業を豊かにする」

もっと多くの学生、職業訓練生、児童生徒や教員が、外国滞在中を通じて学ぶ貴重な経験を得るべきである。この目標は、欧州連合（EU）の教育担当大臣によって共有されており、EU における「エラスムス・プラス（Erasmus+: European Region Action Scheme for the Mobility of University Students）」の資金は倍以上に増額される。ドイツは、国家イニシアティブ「Training Worldwide」プログラムで、欧州の取り組みを補完している。この新たなプログラムは、より多くの職業訓練生が欧州域外での経験をも得られるようにすることを目的としている。ブリュッセルで行われた EU 教育担当大臣会議において、連邦教育研究省（BMBF: Bundesministerium für Bildung und Forschung）のカリチェック大臣は次のように述べた。

「エラスムス・プラスは、他のどの EU のプログラムとも異なり、『欧州体験』を支持している。欧州が掲げる『多様性の調和』のもと、過去 30 年に渡り 1 千万人以上の人々がエラスムスに参加した。私たちはこの成功モデルを継続していく。今後、エラスムス・プラスの資金を 2 倍以上にしたいと考えている。分断の時代には、互いへの理解をもっと深めるとともに、多くの人との出会いが必要である。エラスムスはこれに何十年も寄与してきた。エラスムス・プラスは欧州のより一層の結束を保証している。」

本会議では、EU 教育担当大臣が、次世代のエラスムス・プログラムを立ち上げた。助成期間が 2021 年から 2027 年までとなる後継のエラスムス・プラスの資金は、300 億ユーロに倍増される。また、職業訓練費は 50 億ユーロに増加する。この新たなエラスムス・プラスでは、参加者数をこれまでの 3 倍に到達させるという野心的な目標を掲げている。

BMBF のカリチェック大臣は、次のように強調した。

「外国滞在は、個人的にも職業的にも、人を豊かにするものである。これにより、新たな視野が広げられ、生活や職業の世界でますます必要となっているスキルを身に付けることが促進される。意欲、責任感、外国語、他の文化やものの見方に対する

寛容さを学ぶだけでなく、外国で共に過ごした新しい友人たちの存在は、将来を豊かなものにするだろう。」

BMBF により実施された調査によると、38%の学生がすでに外国での経験を積んでいる。職業訓練生では、5.3%であった。

BMBF のカリチェック大臣は、次のように述べた。

「私たちは、より多くの職業訓練生が外国で貴重な経験を得ることを願っている。そのために国家による Training Worldwide を立ち上げた。これを通じて、より多くの職業訓練生が世界中で経験を積むこと、またドイツの職業教育制度の魅力をさらに強化することを望んでいる。ドイツの職業教育制度は、国際的にも非常に認められている。ドイツの若者の失業率が欧州のどこよりも低いのは職業教育システムのおかげであり、不思議ではない。」

Training Worldwide により外国に派遣される職業訓練生やトレーナーは、ドイツの職業教育制度成功のための大使であるとともに、国境の先を見据えている。

背景

エラスムス・プラスは、一般教育および職業教育、スポーツのための EU のプログラムである。次世代のプログラムは 2021 年に開始予定。欧州委員会は、2018 年 5 月末にこの提案を行った。2018 年 11 月 26 日に開催された EU 教育担当大臣会議では、新たなエラスムス・プラスについて、部分的な方向性を決定した。

Training Worldwide は、職業訓練生およびトレーナーの外国滞在を促進する国家プログラムである。名前の通り、この支援プログラムは、職業訓練生が世界中でインターンシップを行うことを可能にする（現在エラスムス・プラスの対象となっている欧州 33 カ国、および連邦外務省が渡航警告を出している国々は対象外）。職業訓練生の支援期間は 3 週間から 3 か月である。

BMBF:

<https://www.bmbf.de/de/auslandsaufenthalte-in-studium-und-ausbildung-erhoehen-7405.html> (2018 年 11 月 26 日)

シュプリンガー・ネイチャー社と DEAL プロジェクトが

交渉で大きく前進

シュプリンガー・ネイチャー社（Springer Nature）とドイツ学術機関連盟による DEAL プロジェクトは、学術論文のパブリッシュ＆リードに関する画期的なシステムについての交渉を大きく前進させた。これは、DEAL プロジェクトの Hippler 代表、シュプリンガー・ネイチャー社の欧州の営業を統括する Laging 副代表により共同で発表された。シュプリンガー・ネイチャー社と DEAL プロジェクトは、遅くとも 2019 年中頃までの交渉成立を目指す。両者は、交渉の中間段階として、コスト・ニュートラルによる 2019 年の現行契約の延長に再度合意した。これにより、複雑な契約モデルについての議論を結論付けるまでに必要な時間が確保される。また、シュプリンガー・ネイチャー社と DEAL プロジェクトは、学術機関や研究者に対して、シュプリンガー・ネイチャー社のコンテンツへの継続的なアクセスを安定して提供することを目指している。

Hippler 代表は次のように述べている。

「私たちは、2019 年中頃までに、シュプリンガー・ネイチャー社と DEAL プロジェクトとの最終的な交渉が成立することを確信している。2018 年から 2019 年にかけてのコスト・ニュートラルによる延長は、両者の良好な関係を表している。」

Laging 副代表は次のように述べている。

「過去数か月間、DEAL プロジェクトとの交渉は大きく前進し、今やゴール直前である。両者が合意した現行契約のさらなる延長により、あらゆる関係者が旧体制から新体制へスムーズに移行できるよう、実際の施行に集中するのに必要な時間が与えられている。」

HRK:

<https://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/springer-nature-and-deal-considerable-progress-in-negotiations-4472/>

（2018 年 12 月 4 日）

ドイツ学術ニュースについて

ボン研究連絡センターウェブサイトでは、ドイツ学術ニュースを定期的に更新しています！

最新のニュースや過去の記事の詳細については、こちらをご覧ください。

<https://www.jsps-bonn.de/ja/german-science-news/>



（上 2 枚）10 月～11 月にかけての紅葉



ドイツ・ボンの

秋・冬景色



（下 2 枚）12 月中旬に降った初雪

2019 年ゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツ賞

(Gottfried Wilhelm Leibniz – Preis) 受賞者が決定

ドイツで最も重要な研究賞／2019 年 3 月 13 日ベルリン
で授賞式開催予定

ドイツで最も権威ある研究賞の受賞者が発表された。12 月 5 日にボンで開催されたドイツ研究振興協会（DFG）協議会により、2019 年ゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツ賞受賞者 10 名（うち男性 6 名、女性 4 名）が決定された。受賞者は、122 名の候補者の中から審査委員会により選ばれた。受賞者 10 名のうち、3 名は人文社会系、3 名は生命科学系、2 名は自然科学系、2 名は工学系である。受賞者はそれぞれ賞金 250 万ユーロを受け取る。この賞金は、受賞者が研究活動のために任意の方法で、最長 7 年間使用することができる。授賞式は、2019 年 3 月 13 日にベルリンで開催される。

2019 年ゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツ賞受賞者氏名
（分野、所属機関）は下記の通り。

- Prof. Dr.-Ing. Sami Haddadin
（ロボティクス、ミュンヘン工科大学）
- Prof. Dr. Rupert Huber
（実験物理学、レーゲンスブルク大学）
- Prof. Dr. Andreas Reckwitz
（社会学、ヴァイナナ欧州大学）
- Prof. Dr. Hans-Reimer Rodewald
（免疫学、ドイツがん研究センター）
- Dr. Melina Schuh
（細胞生物学、マックス・プランク生物物理化学研究所）
- Prof. Dr. Brenda Schulman
（生物化学、マックス・プランク生物化学研究所）

- Prof. Dr. Ayelet Shachar
（法学・政治学、マックス・プランク多宗教・多民族社会調査研究所）
- Prof. Dr. Michèle Tertilt（経済学、マンハイム大学）
- Prof. Dr. Wolfgang Wernsdorfer
（実験固体物理学、カールスルーエ工科大学）
- Prof. Dr.-Ing. Matthias Wessling
（化学工学、アーヘン工科大学、ライプニッツ研究所）

ゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツ賞は、1986 年以降 DFG により毎年授与されている。毎年最大 10 件が選ばれ、それぞれ 250 万ユーロの賞金が贈られる。2019 年の 10 件を含め、これまでに 368 件の賞が授与されてきた。全受賞件数のうち、120 件は自然科学系、106 件は生命科学系、85 件は人文社会系、57 件は工学系であった。特別なケースでは、共同受賞があるため、受賞者数は受賞件数よりも多くなっている。これまでの受賞者数合計は 395 名（うち男性 339 名、女性 56 名）である。

ゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツ賞はドイツで最も重要な研究賞である。過去の受賞者 7 名が、その後ノーベル賞を受賞している（1988 年ノーベル化学賞 Prof. Dr. Hartmut Michel、1991 年ノーベル生理学・医学賞 Prof. Dr. Erwin Neher、Prof. Dr. Bert Sakmann、1995 年ノーベル生理学・医学賞 Prof. Dr. Christiane Nüsslein-Volhard、2005 年ノーベル物理学賞 Prof. Dr. Theodor W. Hänsch、2007 年ノーベル化学賞 Prof. Dr. Gerhard Ertl、2014 年ノーベル化学賞 Prof. Dr. Stefan W. Hell）。

DFG:

www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2018/press_release_no_55/index.html（2018 年 12 月 6 日）

日本学術振興会ボン研究連絡センター

JSPS Bonn Office

Wissenschaftszentrum

Ahrstrasse 58, 53175 Bonn（事務所住所）

Postanschrift: 20 14 48, 53144 Bonn（郵便物用）

Tel. +49(0)228-375050

Fax +49(0)228-957777

www.jsps-bonn.de

